

平成 20 年度農業総合センター—農業試験場 機関評価票

※評価の数字は、「5」非常に優れている、「4」優れている、「3」妥当、「2」一部見直しが必要、「1」全面的見直しが必要、を意味します。

1. 運営方針及び重点分野					4. 5
5 :	3 人	4 :	3 人	3 :	0 人
2 :	0 人	1 :	0 人		
<ul style="list-style-type: none"> ・果物を中心としたおかやまブランド品づくり、安全で安心な農作物の安定供給、環境負荷軽減型農業技術の開発、省エネルギー、温暖化対策、高齢者でも可能な省力・軽労働化技術等の開発は、それぞれが深く関連しており、戦略的に取り組むべき課題である。また、これらの課題を解決するための機関として総合力が発揮できるよう組織化されており、今後の岡山県農業の発展に極めて重要な位置を占めていると評価できる。 ・麦、大豆など自給率向上のための水田農業確立に関する技術開発が着実に進められている点も良い。 					
2. 組織体制及び人員配置並びに予算配分					3. 7
5 :	0 人	4 :	4 人	3 :	2 人
2 :	0 人	1 :	0 人		
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な組織体制であり、人員配置、予算配分については、おおむね適切である。 ・既に研究課題や事業は整理・統合による重点化がなされている。 ・農業試験場は県農業の発展・推進のため重要な役割を担っており、今後とも競争力が低下しないよう、現在の人員配置、予算配分が維持されることを望む。 ・農林水産省、文部科学省の競争的資金等による外部資金の積極的な導入に努められたい。 					
3. 施設、設備等					3. 3
5 :	0 人	4 :	2 人	3 :	4 人
2 :	0 人	1 :	0 人		
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省等の補助事業を活用して設備等の整備に努めていることは評価できる。 ・施設の老朽化に対応した整備計画が必要である。 					
4. 研究成果					4. 3
5 :	2 人	4 :	4 人	3 :	0 人
2 :	0 人	1 :	0 人		
<ul style="list-style-type: none"> ・主要な研究成果を「普及に移し得る技術」として公表し、迅速な普及に努めるなど積極的な取り組みが行われている。 ・「品種登録」、「特許出願」といった知的財産取得にも成果が上がっている。なお、今後とも、より一層知的財産が取得できる環境や積極的な活用を促進する仕組み作りに努めるべきである。 					
5. 技術相談・指導、依頼試験等の実施状況					4. 0
5 :	1 人	4 :	4 人	3 :	1 人
2 :	0 人	1 :	0 人		

<ul style="list-style-type: none"> ・農業普及指導センターを通じての病害虫や生理障害の診断や対策等の相談件数は多く、農家等からの期待が大きいと考えられる。また、企業等からの依頼試験の件数も多い。 									
6. 人材育成				3. 8					
5 :	0人	4 :	5人	3 :	1人	2 :	0人	1 :	0人
<ul style="list-style-type: none"> ・学会、研究会、研修会に職員を派遣するなど人材育成は良くできている。しかし、学会への出席率が低いので高まるよう努められたい。 ・ブランド品目の輸出など国際的な対応が益々重要になることから、長期的計画的な人材育成計画の策定が必要である。 									
7. 他機関との連携				4. 0					
5 :	1人	4 :	4人	3 :	1人	2 :	0人	1 :	0人
<ul style="list-style-type: none"> ・他機関との連携に関しては、県内や中国地方での研究課題を中心に産学官連携による共同研究が進められていることは、評価できる。 ・外部資金の獲得については共同研究も重要なので、可能な限り他機関との連携を推進することが重要である。 									
8. 情報発信				3. 7					
5 :	1人	4 :	2人	3 :	3人	2 :	0人	1 :	0人
<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫発生情報、試験研究主要成果等のホームページへの掲載や公開セミナーの開催等を通じて、全般に良く情報発信できている。また、プレス発表、新聞やテレビの取材等にもよく対応している。 									
9. 前回の指摘事項への対応									
10. 総合評価				4. 0					
5 :	0人	4 :	6人	3 :	0人	2 :	0人	1 :	0人
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的には、運営方針と重点分野の設定が適正である。くだもの王国岡山を支える「おかやま夢白桃」、「オーロラブラック」などの新品種の育成やブドウの新栽培技術の開発など、多くの成果が着実に上がっており、県農業の発展に多大な貢献をしている。また、水稻、大豆、麦の優良種子の安定供給のための原種圃事業や病害虫発生予察事業等を実施し、県農業の支えとしての役割も高く評価できる。 ・試験研究成果を効果的、効率的に普及・指導する組織体制が有効に機能している。厳しい県財政の中で、研究費の削減も伝えられているが、今後とも現体制を縮小することなく積極的な研究開発や事業を推進し、本県農業の推進役を担って欲しい。 									